

大阪工業大学大学院 ディプロマ・ポリシーと学位論文審査項目・基準との関連

大学院 工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 応用化学コース

博士後期課程

《 DPを達成するために特に関連度が高い項目に○ 》

ディプロマ・ポリシー		学位論文審査項目						
		項目1)	項目2)	項目3)	項目4)	項目5)	項目6)	項目7)
研究科DP	(1) 専門分野における高度な専門性とそれを活用できる研究能力に基づき、課題発見およびその解決に向けた取り組みを実践できる。	○	○	○				
	(2) 外国語を含めた論理的言語表現能力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力により、教育・研究内容を他者に伝え、他者の意見も理解し、リーダーシップを発揮することができる。							
専攻DP	(A) 専攻が包含する幅広い技術基盤と複眼的な視野をもった高度専門職業人として、持続可能な発展に関わる課題発見と解決を主導できる。	○		○	○	○		
	(B) 高度な専門性とそれを活用できる研究および実験能力に基づき、課題に対する問題設定および解決に向けた取り組みを自立的に実践できる。				○			
	(C) 論理的かつ多言語的なコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力により、さまざまな情報の受発信を円滑に行うことができ、それをもとにリーダーシップを発揮することができる。							
コースDP	(I) 化学に関わる課題を始めとする幅広い課題を発見し解決するために、種々の現象を他分野からの視点を含めて多面的に観察・分析・総合・評価し、解決策を立てることができる。					○		
	(II) 課題解決に当たっては、常に環境への負荷を判断しながら的確に行動できる。		○					
	(III) 高度な実験技術を身につけ、技術の改良や融合による新技術の創出に貢献することができる。			○				
	(IV) 修得した知識や思考あるいは情報を適切に発信しながらグローバルに活動でき、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる高度な能力と倫理観を身につけ、学ぶ意欲を保ち続ける。							○

学位論文審査項目・基準 (課程博士・論文博士共通)

審査項目	審査基準(満たすべき水準)
項目1) 論文テーマの妥当性	研究目的が明確で学術的・社会的意義を有すること。
項目2) 研究方法の妥当性	目的達成のため、適切な研究方法を実践していること。
項目3) 独創性(新規性)	テーマの設定、研究方法、結論等において、未知の事象・事物の発見や新たな見解を示していること。
項目4) 有用性	得られた知見が関連する分野の学術的・技術的發展に貢献していること
項目5) 信頼性	既往の研究等が適切に評価され、それらを自己の観点から十分に分析していること。
項目6) 完成度	一貫した論理が展開され、学術論文としての体裁が整っていること。
項目7) 倫理性	研究が倫理的に管理されていること。